

「屋島」の持続性のある活性化に向けた取組



高松市

魅力ある屋島再生協議会

高松市 創造都市推進局

観光エリア振興室

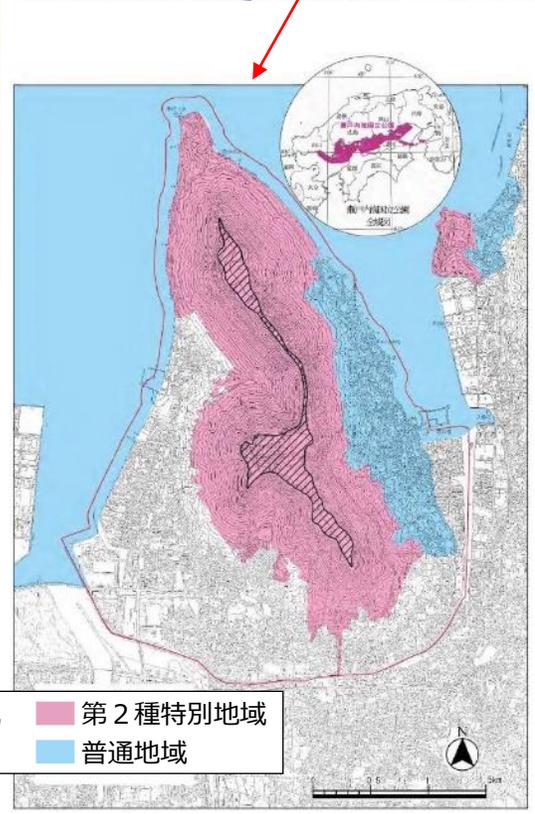
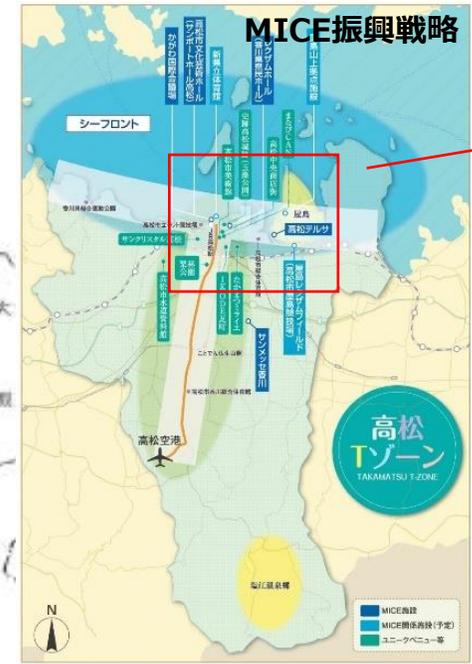
瀬戸内海国立公園「屋島」



遊鶴亭



- 当初指定 (S 9. 3. 16)
- 第一次拡張 (S25. 5. 18)
- 第二次拡張 (S31. 5. 1)
- 第二次拡張以降 (1府10県)



【備讃瀬戸】
R6(2024).3.16
指定90周年

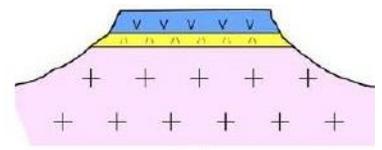
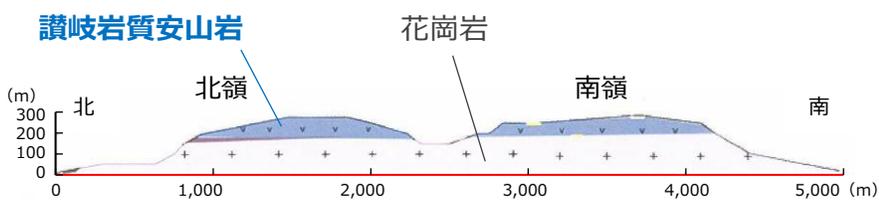
「屋島」は、昭和9年に日本で最初に指定された「瀬戸内海国立公園」内に位置し、四国 香川県高松市を代表する、文化観光地。

国の史跡・天然記念物 ジオサイト「屋島」

女木島から見た屋島



凡例	岩石名	地層名	時代
	流紋岩質凝灰岩	讃岐層群	新第三紀中新世
	屋島礫層		
	讃岐岩質安山岩		
	凝灰岩・凝灰角礫岩	領家花崗岩類	中生代白亜紀後期
	花崗岩		
	変成岩類	領家変成岩類	中生代白亜紀後期



メサ

凡例		
	安山岩類	
	凝灰岩類	
	花崗岩類	

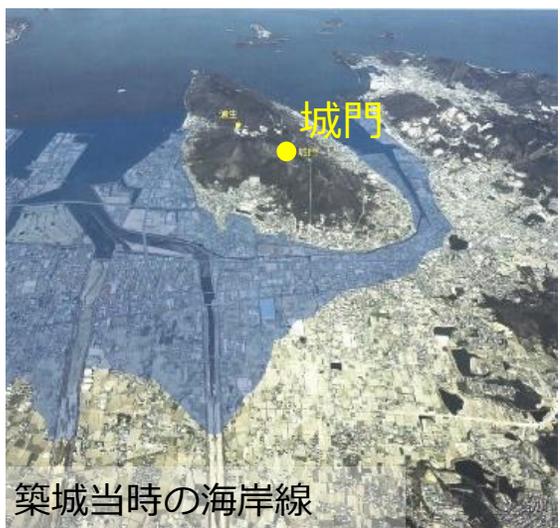


約1億年前に形成された領家花こう岩の基盤岩の上に、約1,400万年前の瀬戸内火山活動による讃岐層群の火山岩等が覆っており、山上の硬い安山岩がキャップロックとなり、約1,300万年間の浸食により、崖に囲まれた山頂の平坦面と、寺勾配の斜面が美しい、「メサ」の独立峰「屋島」が形成され、古代～近世の史跡が数多く残る「屋島」は、国立公園の指定を受けた昭和9年、同年11月10日に、国の史跡・天然記念物に指定された。

絶壁の崖に囲まれた山頂は目の前が開け、瀬戸内海の絶景と、讃岐平野に広がり発展した「海園都市・高松」のパノラマビューが楽しめる。

「屋島」の歴史 古代～

- 1億年前～ 大陸で花こう岩形成、隆起・風化し、四万十帯の付加体が形成される
- 2000万年前～ 瀬戸内火山活動により、サカハシ類（ガラス質古銅輝石安山岩）が誕生する
- 1万年前～ 瀬戸内海が形成される
- BC 100頃 屋島で人が生活を始める
- AC 400頃 長崎鼻古墳が築造される
- 古墳時代後期 この頃のものとして推定される製塩土器が鶴羽神社境内から出土している
- 667（飛鳥） **屋嶋城が築かれる**（日本書紀 記載）
- 754（奈良） 鑑真が山上に上り、弟子が北嶺に堂宇を建立する（伝）
- 810（平安） 空海が北嶺の伽藍を中大嶺に移し、屋島寺本堂を建立する（伝）
- 9C末～10C頃 屋島寺の前身寺院（千間堂）が創建される



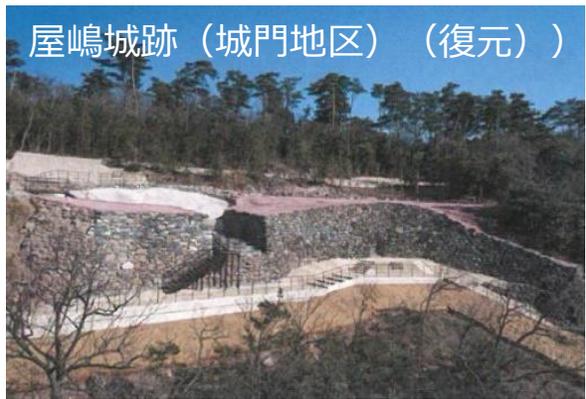
築城当時の海岸線



発見当時の城壁



屋嶋城跡城壁（復元）



屋嶋城跡（城門地区）（復元）

1998（H10）年発見

屋嶋城 1)

「屋島」の歴史 明治～

- 1897 (明治) 村雲日栄尼 (伏見宮家皇女) が南麗東側の景勝地を「談古嶺」と命名する
- 1903 皇太子殿下 (後の大正天皇) が屋島山上を訪れる
- 1911 今橋～志度間に、電気鉄道が敷かれる (現 琴電屋島駅 開業)
- 1920 (大正) 屋島が香川県立国定公園に指定される
- 1922 山上北嶺を巡る回遊路が完成する
- 1922 皇太子殿下 (後の大昭和皇) が屋島山上を訪れる
- 1923 **久邇宮良子女王 (後の香淳皇后) が屋島山上を訪れる。北嶺の展望台を「遊鶴亭」と命名する** (獅子之霊巖、談古嶺とともに、屋島の三大展望台)
- 1925 高松～志度間に、国鉄高德線が開通する (現 JR屋島駅 開業)
- 1929 (昭和) 屋島登山鉄道のケーブルカー (屋島ケーブル) が開通する
- 1934 **屋島、寒霞溪 (香川県)、鷺羽山 (岡山県)、鞆の浦 (広島県) 周辺の備讃瀬戸を中心とした一帯が、「瀬戸内海国立公園」として、国立公園の第一号に指定される** (現在は1府10県にまで広がる)
- 1934 **史跡 (行宮跡・古城跡・古戦場) 及び天然記念物 (岩石露出溶岩台地としての火山岩の構造) として、文化財に指定される**
- 1935 屋島山麓を一周する周回道路が開通する
- 1943 戦争激化に伴い、屋島ケーブルが閉鎖される
- 1949 英国詩人エドモンド・ブランデン「屋島を訪ねて」を作る
- 1950 戦争により閉鎖されていた、屋島ケーブルが営業運転を再開する
- 1954 山上への水道送水が行われるようになり、山上地区の水不足が解消する



遊鶴亭から望む「瀬戸内海の多島美景観」



源平合戦の地を望む



庵治石の大丁場と五剣山

談古嶺からの風景

塩田が広がる風景
 (写真の使用は
 審査会限りのため
 削除)



1952 (S27) .4月

同一地点の現在 (2023 (R5) .1月)

塩田が広がる、かつての風景 (～1971 (S46)) (獅子の霊巖からの眺望)

「屋島」の歴史 戦後、一大観光地として

- 1961 屋島ドライブウェイが開通し、自動車で山上まで通行できるようになる
- 1969 山上に、屋島山上水族館が開館する
- 1971 屋島塩田が廃止される
- 1972 屋島の観光客がピークを迎える（約246万人/年）
- 1973～1981 屋島西町の塩田跡地で土地区画整理事業が実施され、山麓の市街地化と人口増加が進む
- 1971 屋島東町に、屋島市少年自然の家が開館する
- 1976 山麓に、四国村民家博物館が開館する

屋島ケーブル

(1929 (S4) 開通、1943 (S18) 戦時閉鎖、
1950 (S25) 再開～2004 (H16) 休止、翌年廃止)

かごを楽しむ様子

(写真の使用は
審査会限りのため
削除 ※他も同じ)

1955-1964 (S30年代)

開業当時の ドライブウェイ 入口の様子

1967 (S42)



2013 (H25) 頃

山上へと向かう 屋島ケーブルカー

1972 (S47) 頃

屋島山上駅前の 賑わい (遊覧かご)

1955 (S30)
屋島山上駅付近
客待ちの遊覧駕籠

山上で かわらけ投げを楽しむ 多数の観光客

1969 (S44)

屋島ドライブウェイを 走る乗用車

1972 (S47) 頃

1961 (S36) 観光バスで賑わう山上の駐車場

山上駐車場の様子

山麓の登山口駅の 駐車場の様子

1955 (S30)
屋島ケーブル登山口駅付近に
駐車する観光バス

賑わいにあふれる屋島

屋島ドライブウェイ (1961 (S36) 開通)

屋島ケーブル

「屋島」の歴史 観光の多様化の中で

- 1961 屋島ドライブウェイが開通し、自動車で山上まで通行できるようになる
- 1969 山上に、屋島山上水族館が開館する
- 1971 屋島塩田が廃止される
- 1972 屋島の観光客がピークを迎える（約246万人/年）
- 1973～1981 屋島西町の塩田跡地で土地区画整理事業が実施され、山麓の市街地化と人口増加が進む
- 1971 屋島東町に、屋島市少年自然の家が開館する
- 1976 山麓に、四国村民家博物館が開館する

- 1983 観光客がピーク時の約半分（約125万人/年）まで減少する
- 1988 瀬戸大橋が開通し、観光客が回復する（約213万人/年）

- 2004 屋島ケーブルが営業を休止する（翌年廃止となる）
- 2006 屋島水族館がリニューアルオープンする

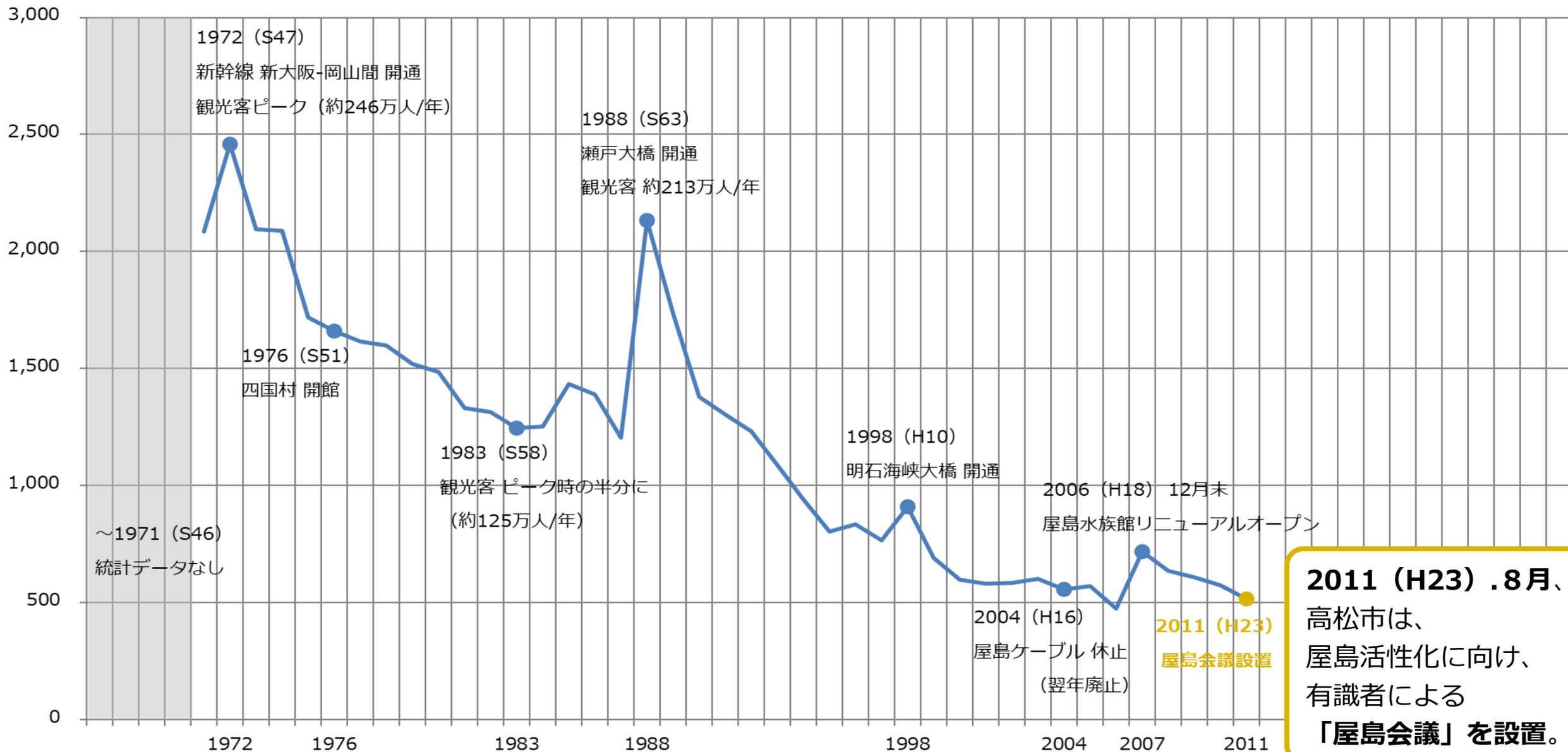
観光の多様化（個人旅行化、目的の多様化、交通手段の変化等）が進み、団体宿泊観光客が減少。これに対応していた大型施設が次々と閉鎖、放置され、老朽化した廃屋が目立つようになり、観光客の足が遠のくようになる（写真：2013（H25））



加えて、2004（H16）年、利用者の減少のため、屋島ケーブルが休止（翌年廃止）。山上へのアクセス手段（公共交通手段）がなくなる。⇒（2006（H18）シャトルバスの運行開始）

「屋島」の観光客数の推移

屋島観光客（千人/年）



(年) ※年度ではない

「屋島活性化基本構想」策定



屋島会議の様子



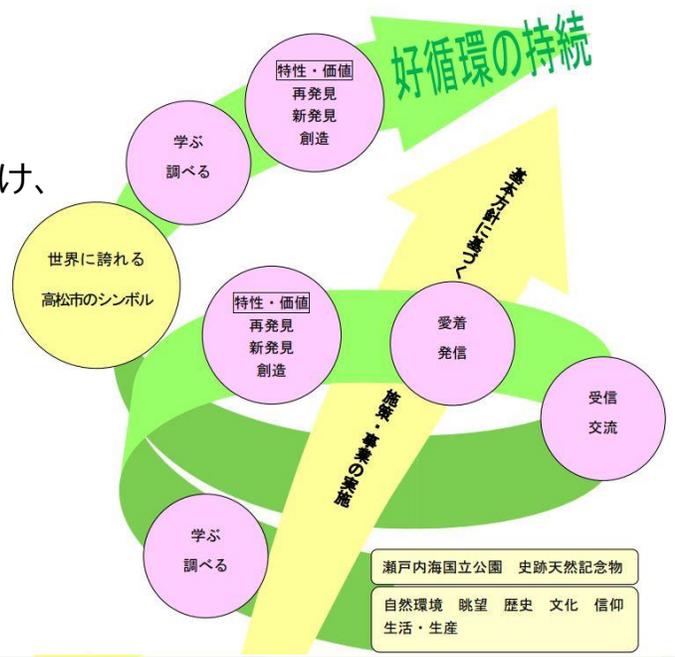
委員による現地調査

No.	施策・事業名	期間			実施の主体				概要
		短期	中期	長期	市県・市町村・自治体	民間	大学等	行政	
23	遠足等コースの設定	●	●	●	○	○	○	◎	登山や散歩を通して、屋島の自然に親しみ、関心を深めることにより屋島の特性・価値を次世代に継承していくため、小学校や子ども会等における遠足やレクリエーション行事等において屋島を活用するもの。
24	子ども講座の開催	●	●	●	○	○	◎		屋島の特性・価値を次世代に継承していくため、高松市内の子どもたちを対象に、屋島および周辺地域と連携し、歴史・文化・芸術等の体験学習を定期的に行うもの。
25	子ども向けパンフレット等の作成・活用	●	●	●			○	◎	幼少期から屋島への関心・探究心を育む環境をつくるため、子どもにも分かりやすい屋島のパンフレット等を作成し、活用するもの。
26	屋島地域交流イベントの開催	●	●	●	○	◎		○	交流人口を増加させることにより、屋島地域の活性化を図るとともに、屋島の魅力についての認識を深めるため、屋島山上・庵治・牟礼・古高松地区を含む屋島広域で連携しての史跡巡り等地域主体の様々なイベントを定期的・継続的に開催するもの。 (実施中：夕・夜景フェスタ、満月まつり、ふれあい祭り庵治、むれ源平 石あかりロード)
27	推進組織の設置	●	●	●	○	○	○	◎	屋島会議オブザーバーの参加を得て、会議での協議内容を熟知した者、また、実際に施策・事業に携わる者を構成メンバーとして、実行力の備わった推進体制を整備するもの。
28	屋島活性化関係者会合の開催	●	●	●	○	○	○	◎	推進組織を始めとする関係機関等の有機的な連携によるネットワークを構築し、情報を一元化するとともに、基本構想の実現・進捗状況をチェックするため、屋島活性化関係者による会議を定期的に行うもの。

屋島会議 (全7回)

- ・ 2011 (H23) .8月、高松市は、屋島活性化に向け、有識者による「屋島会議」を設置し、屋島の価値を再評価した。
(学識者5、商工・経済関係団体2、観光関係組織2、地域コミュニティ・地元団体3、デザイン・建築2、公募3、《オブザーバ》国4、県3、交通事業者2、屋島民間事業者3)
- ・ 2012 (H24) .11月に、最終報告が取りまとめられ、答申を受けた。

⇒ 答申を受け、高松市は、
2013 (H25) .1月、
屋島の持続性のある活性化に向け、
市民と一体となって、
屋島の特性や価値の保存と、
地域資源としての有効活用
を図るため、
「屋島活性化基本構想」を
策定した。



44の
 具体的施策・事業

基本方針	
ア	貴重な自然環境や文化財の継続的かつ体系的な調査・研究と保全
イ	歴史・文化・信仰に富む屋島の再発見と活用
ウ	知的欲求を満たす「文化観光」の創造
エ	都市づくりと連動した景観の保全と再生
オ	屋島の有する特性・価値の次世代への継承
カ	実効性のある推進体制の整備・構築

「魅力ある屋島再生協議会」による推進

屋島活性化基本構想 (2013 (H25) . 1月策定)

- 「屋島の持続性のある活性化に向け、**市民と一体となって**、屋島の特性や価値の保存と、地域資源としての有効活用を図るために必要な基本方針や具体的方策を明らかにし、今後における高松市の施策・事業に反映させる」ことを目的として策定。
- 屋島活性化に向けて**実行すべき具体的施策・事業として、44の具体的施策・事業を掲げた。**

魅力ある屋島再生協議会

- 「屋島活性化基本構想」を推進するため、屋島に関わる官民関係者、有識者が一堂に会し、課題の点検・共有、対応への提言・提案、また、それぞれの役割に基づく事業の連携・実行を行い、進捗状況を把握し評価を共有する組織として、**2013 (H25)、「魅力ある屋島再生協議会」を設立した。**
(学識者3、商工・経済関係団体2、民間等事業者4、観光関係組織4、地域コミュニティ・地元団体3、国機関3、県機関・部局3、市部局1の計23組織が参画。毎年開催。)



魅力ある屋島再生協議会

【基本方針】

貴重な自然環境や文化財の継続的かつ体系的な調査・研究と保全

【活性化方策の方向性】

歴史・文化・信仰に富む屋島の再発見と活用

ウ知的好奇心を満たす「文化観光」の創造

工業市づくりと連動した景観の保全と再生

オ屋島の有する特性・価値の次世代への継承

カ実効性のある推進体制の整備・構築

- ① 地形・地質・動植物等自然環境の調査・研究と保存・活用
- ② 神社・民俗・遺跡等の調査・研究と保存・活用
- ③ 名勝の価値の調査・研究
- ④ 各分野の学際的調査・研究
- ⑤ 各種調査・研究成果の体系的整理
- ⑥ 調査・研究成果の蓄積と情報発信システムの整備

- ① 歴史・文化・信仰・生活・生産の魅力に関する情報の公開・交流・活用
- ② 特性・価値等の多面的な情報の発信
- ③ 屋島を知ることと目的としたイベントの開催
- ④ 屋島に関連した文化的(歴史・伝統等)イベントの開催
- ⑤ 魅力ある資源としてのソフト・ハード面での活用
- ⑥ 沿革の分析・把握と将来への展望

- ① 屋島全体の特性・価値等のPR
- ② 屋島を知り、学べる施設の整備
- ③ 観光施設・体験施設・便益施設等の充実
- ④ 周辺観光施設等との連携
- ⑤ 更地の有効的な活用
- ⑥ アクセシビリティの向上
- ⑦ ケーブル施設等の利活用
- ⑧ 屋島を楽しむイベントの開催

- ① 眺望ポイントの整備
- ② 山容を望む場の確保
- ③ 屋島を望む景観の保全
- ④ 近傍公共の施設の活用

- ① 子どもたちの屋島に接する機会の創出
- ② 分かりやすい情報提供
- ③ 家族でつづげる施設の整備等
- ④ 家族で参加できるイベントの開催

- ① 調査・研究・保存・活用・管理・運営関係各機関ネットワーク構築
- ② 屋島活性化方策推進体制の整備
- ③ 屋島に関わる人材の育成

【具体的施策・事業】

- 1 古代山城屋嶋城跡城門遺構の整備
- 2 天然記念物屋島の調査
- 10 屋島の森保全活動
- 30 名勝についての調査・研究
- 31 史跡・天然記念物屋島保存管理計画の見直し
- 36 文化財の保存・整備・活用
- 37 史跡・天然記念物屋島基礎調査の実施
- 38 讃岐ジオパーク構想との連携
- 3 古代山城サミットの開催
- 4 現代源平屋島合戦絵巻の開催
- 12 屋島に関する情報発信力の強化
- 13 自然探訪・史跡巡り等歩行の開催
- 14 探鳥会の開催
- 5 瀬戸内国際芸術祭との連携(高松港周辺における屋島での展開等案)
- 6 シンボルマーク等の作成
- 15 観光ルートの開発・商品化・宣伝
- 16 屋島のパンフレット・マップ等の作成
- 17 周辺観光施設等との連携割引制度等の創設
- 18 定期シャトルバス路線の拡充
- 32 デジタルセンター(ガイドナシ施設)の整備
- 33 便益施設等(史跡等案内板・家屋・ベンチ・トイレ)の整備
- 34 北嶺の利活用
- 39 農望・芝生公園の整備
- 40 新屋島水族館等集客施設の充実
- 41 山上駐車場の拡充
- 42 近傍エリア臨時駐車場の確保
- 43 登山道・遊歩道等の整備
- 7 高松市景観計画の策定(変更)
※景観形成重点地区(屋島地区)の指定
- 8 屋島陸上競技場の再整備
- 19 市街地・多島美等景観ポイントの選定・公表
- 20 屋島陸上競技場等公共施設内や駅近駅舎内での写真・マップの展示
- 35 眺望を遮る樹木の剪定・伐採
- 9 遠足バス通行料の助成
- 21 市民マラソン大会の開催
- 22 屋島少年自然の家体験学習との連携
- 23 遠足等コースの設定
- 24 子ども講座の開催
- 25 子ども向けパンフレット等の作成・活用
- 26 屋島地域交流イベントの開催
- 44 多目的広場の整備
- 11 自然・歴史ガイドの育成
- 27 推進組織の設置
- 28 屋島活性化関係者会の開催
- 29 学術的調査・研究講座の開催

「屋島活性化基本構想」の実行、官民の連携 ハード整備

れいがん茶屋のリニューアル



山上空間の整備



やしまーるの整備・オープン

山上区域での取組み



民間による廃屋撤去

四国村ミュージアム・エントランス棟の整備



四国村ミュージアムのリニューアル



ウェルカムロードの整備



屋島スカイウェイの整備



山麓区域での取組み

「屋島活性化基本構想」の実行、官民の連携 ハード整備①

ウェルカムロードの整備



屋島スカイウェイの整備



民間による廃屋撤去

山上区域での取組み

ドライブウェイの無料化 → 市道化
(民間自動車専用有料道路) (公道)



料金所を撤去 → バス停整備



山麓区域での取組み

「屋島活性化基本構想」の実行、官民の連携 ハード整備②

れいがん茶屋のリニューアル



山上空間の整備



やしまーるの整備・オープン



四国村ミュージアムのリニューアル



山上区域での取組み

山麓区域での取組み

「屋島活性化基本構想」の実行、官民の連携 ソフト事業

大学生による、地場産品プロジェクト
(讃岐ちょうちん) 「ちょうちんカフェ」



音楽イベント「天空ミュージック」



夜間イベント「小さなサーカス小屋」



「屋島スカイウェイ」開通記念自転車イベント



「天空のガーデンマルシェ」

登山イベント「屋島お宝発見ウォーク」



地域参加型イベント
「さぬき満月まつり」

第15回 さぬき満月まつり



夜間イベント「冬のライトアップ」
(プロジェクションマッピング)



山上で活躍する「ボランティアガイド」



2022取組み開始
「屋島リブランディング」



「屋島活性化基本構想」の実行、官民の連携 ソフト事業①

大学生による、地場産品プロジェクト
(讃岐ちようちん) 「ちようちんカフェ」



音楽イベント「天空ミュージック」



登山イベント「屋島お宝発見ウォーク」



地域参加型イベント
「さぬき満月まつり」



「天空のガーデンマルシェ」



「屋島活性化基本構想」の実行、官民の連携 ソフト事業②



「屋島活性化基本構想」の実行、官民の連携 ソフト事業③

夜間イベント「小さなサーカス小屋」



「冬のライトアップ」
(プロジェクションマッピング)



高松まつり花火大会に合わせた
「クラフトビールを楽しむツアー」



地元小学生の学習発表ミュージカル公演



結婚式



TV生中継会場

「屋島」の歴史 再生への取組

- 1961 屋島ドライブウェイが開通し、自動車で山上まで通行できるようになる
- 1969 山上に、屋島山上水族館が開館する
- 1971 屋島塩田が廃止される
- 1972 屋島の観光客がピークを迎える（約246万人/年）
- 1973～1981 屋島西町の塩田跡地で土地区画整理事業が実施され、山麓の市街地化と人口増加が進む
- 1971 屋島東町に、屋島市少年自然の家が開館する
- 1976 山麓に、四国村民家博物館が開館する

- 1983 観光客がピーク時の約半分（約125万人/年）まで減少する
- 1988 瀬戸大橋が開通し、観光客が回復する（約213万人/年）

- 2004 屋島ケーブルが営業を休止する（翌年廃止となる）
- 2006 屋島水族館がリニューアルオープンする

- 2011 高松市が屋島活性化に向け、有識者による「屋島会議」を設置する
- 2012 高松市が「高松市景観計画」を策定し、屋島を「景観形成重点地区」に指定する
- 2013 高松市が「屋島活性化基本構想」を策定する（「屋島会議」終了）
- 2013 高松市が「屋島活性化基本構想」を受け、地元関係者、有識者、国、県、市が参画する「魅力ある屋島再生協議会」を設置する
- 2017 景観まちづくり刷新事業（国土交通省）のモデル地区指定を受け、高松市が景観まちづくり刷新事業を開始する
- 2017 高松市が屋島ドライブウェイを取得し無料化する。翌年市道化し、愛称を公募し、「屋島スカイウェイ」とする
- 2021 山上の れいがん茶屋がリニューアルを行う
- 2022 山麓の四国村民家博物館がリニューアルを行い、四国村ミュージアムとなる
- 2022 高松市が山上に、高松市屋島山上交流拠点施設を供用開始する。愛称を公募し、「やしまーる」とする
- 2022 屋島山上観光協会が、景観ブランディングを開始する
- 2023 「令和5年 都市景観大賞 一都市空間部門一」大賞（国土交通大臣賞）を受賞

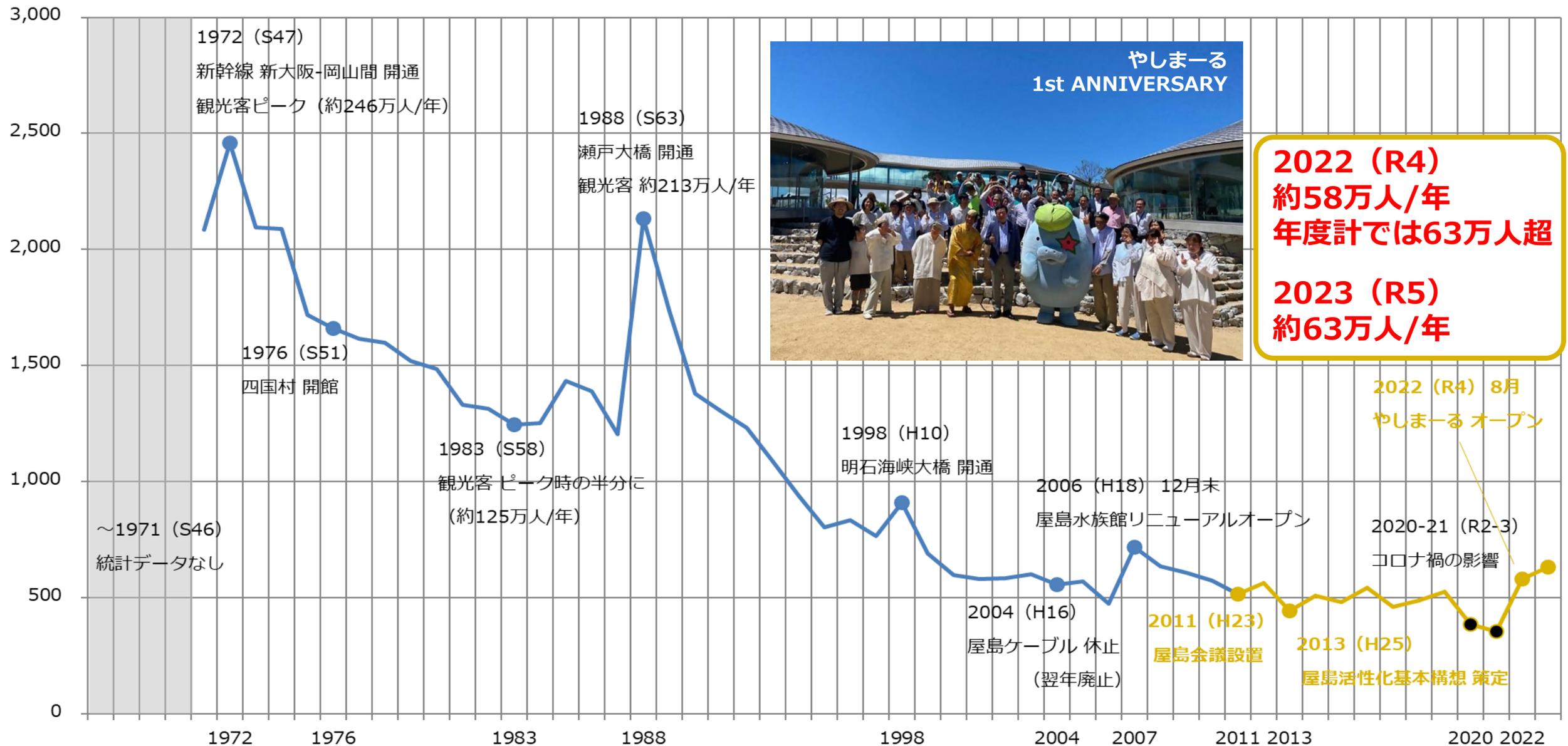


官民が集まり、思いを一つにして取り組んだ屋島活性化の取組が高く評価され、「令和5年 都市景観大賞 一都市空間部門一」において、「大賞（国土交通大臣賞）」を受賞。（R5.6）

現在も引き続き、官民が一体となって、屋島の価値を将来に受け継ぐため、屋島の持続性のある活性化の好循環の構築に向けて、それぞれの役割分担の下、取り組んでいる。

「屋島」の観光客数の推移 ～現在

屋島観光客（千人/年）



(年) ※年度ではない

「屋島の魅力」日本最初の国立公園たる、瀬戸内の魅力、自然環境

屋島を歩けば、そこでは、地域固有の自然と季節を、目で、耳で、五感で感じ、発見することができます。

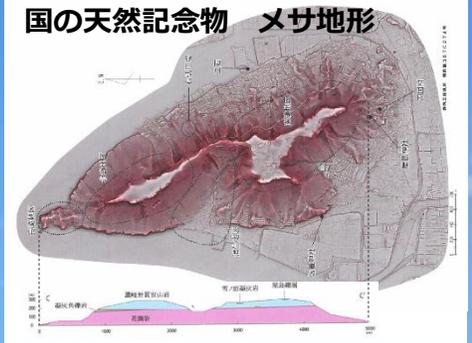
また、周囲を見えれば、瀬戸内海からの風を感じながら、穏やかな海に広がる多島美と、海園都市 高松の街並みが、それぞれの時間に見せる表情を、大パノラマで眺望できます。

海園都市 高松の街並み

夜景

夕景 (夕凧の瀬戸内海へと沈む夕日
夕日が瀬戸内海に沈むのは、4下旬～8中旬)

瀬戸内海の多島美



「屋島の魅力」歴史、特性、価値を大切にし、協力、支え合う、持続可能な都市・地域²¹



四国四県で世界遺産を目指す
四国遍路八十八箇所の一つ
第八十四番札所 屋島寺

ボランティアガイドの活躍



屋嶋城跡



文化財展示等による学習コンテンツ



屋島では、地域固有の文化、歴史、遺跡や文化財と、それを紹介する人の姿や、日常の風景として四国に根付く、他地域にない風景「お遍路」の姿を見ることができます。

「屋島の魅力」環境負荷を抑え、環境を意識した観光振興

廃棄予定の安山岩の
転石を活用した石のスツール



残布を活用した
商品開発

有料自動車道から開放された「屋島スカイウェイ」には、日常的に、自転車利用者が目立つようになりました。

やしまーるには、素材の価値、意味、美しさを活かした、石のスツールがあります。

環境に配慮した商品の開発など、新しい動きが、屋島に生まれてきています。

「屋島の魅力」 共生社会、ユニバーサルツーリズム

屋島には、子ども連れ、お年寄り、外国人観光客など、多くの方が訪れています。

山上園路のフラット化、案内看板の多言語対応（外国人観光客に分かりやすいネイティブ目線の英語化）、施設での車いすの貸出など、世代を超えて、先々まで来てもらえる屋島であるよう、また、屋島が選ばれる観光地であるよう、どの人にも楽しんで帰ってもらえる受入環境の整備を、鋭意進めています。



電動アシスト付き
車いす貸出



看板多言語対応 (英語併記)



世代を超えた来訪者



フラットな山上園路
(許可車両以外、車両進入禁止)



➡この先、屋島の賑わいを、持続可能なものとして、継続、拡大させるために、ユニバーサルツーリズムの観点からの受入環境の整備を進めています。

(年表記載内容出典)

- 1 高松市（文化財課），史跡天然記念物屋島，p.7，2020（R2.3.35）
- 2 高松市歴史資料館，史跡・天然記念物屋島指定80周年企画展 屋島－シンボリックな大地に刻まれた歴史－，pp.56-57，2014（H26.12.27）
- 3 高松市，屋島活性化基本構想，pp.35-39，2013（H25.1）

(写真資料)

(写真の使用は審査会限りのため削除)



「高松市 屋島活性化」で検索
→ 高松市観光エリア振興室HP内
「屋島の活性化」

<https://www.city.takamatsu.kagawa.jp/smph/kurashi/shinotorikumi/keikaku/sonota/yashima/index.html>

「屋島活性化基本構想」(H25.1策定)

上記ページ内 PDF

https://www.city.takamatsu.kagawa.jp/kurashi/shinotorikumi/keikaku/sonota/yashima/index.files/17964_L23_yashima_kihonkousou250924.pdf



1965 (S40)
高松駅の向こうに屋島

高松駅の背中に
屋島の山体が写る

1990 (H8) 頃
連絡船から見る ふるさとの風景・屋島

屋島を眺める乗客が写る
連絡船の甲板の様子

(写真の使用は
審査会限りのため
削除 ※他も同じ)

2022 (R4) サンポートから見る屋島

